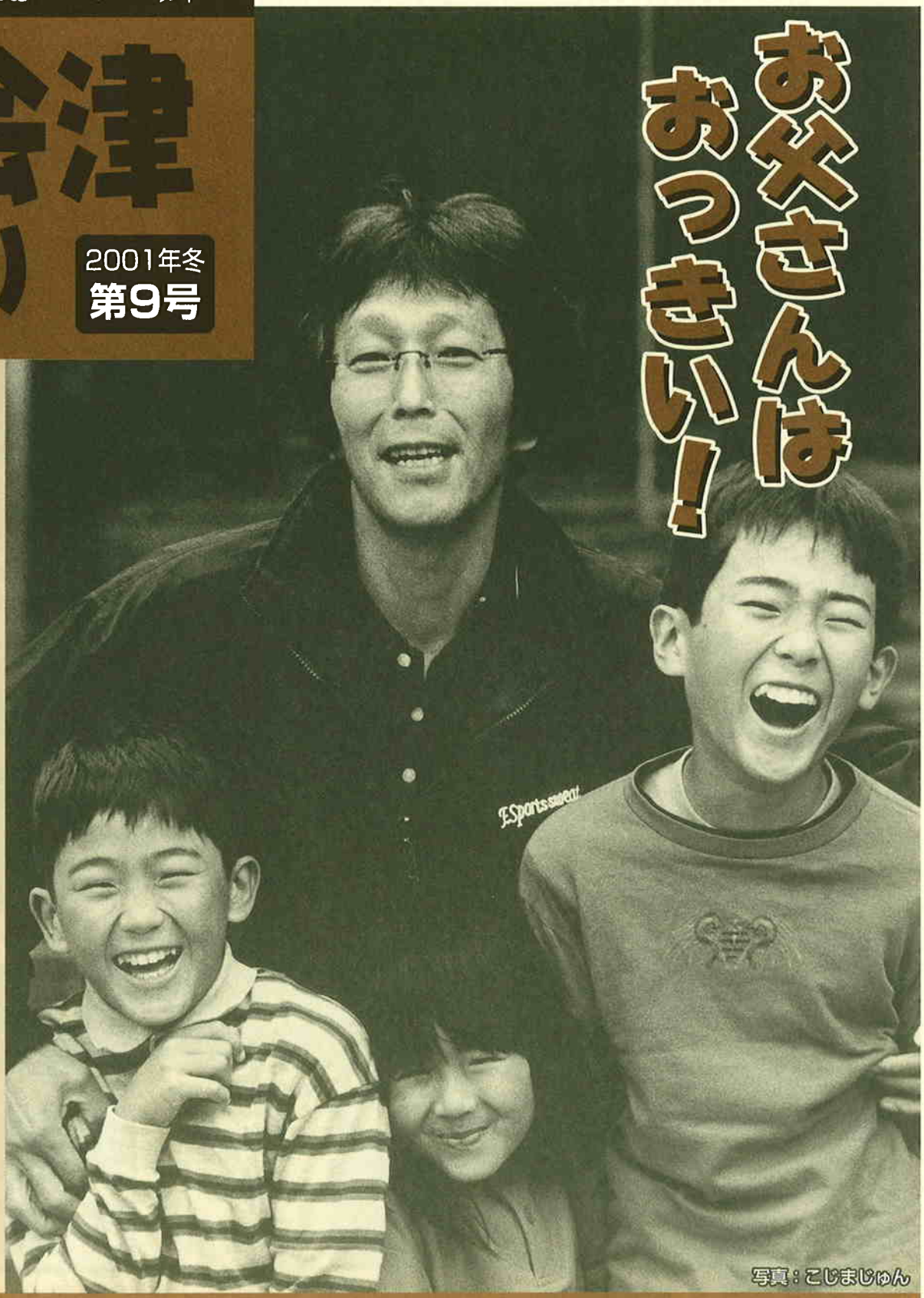
歳時記の郷

奥会津だより

2001年冬
第9号

お父さんはおっきい！



写真：こじまじゅん

只見川クレヨンゆらす花火大会

第六回 歳時記の郷・奥会津俳句大会特別賞　小中学生の部準賞一席

柳津小学校　長谷川裕美

「只見川電源流域振興協議会の歴史」④

今回は「流域環境美化と清流に親しむ事業」についてご紹介します。

私たちは、自分たちの住む地域をまずよく知り、親しみ、住民自らが地域の環境を守っていくことが必要です。この事業は、平成十二年度からの第二期事業のスタートとともにはじまった、住民参加による環境美化活動です。

「流域環境美化と清流に親しむ事業」では、地元の川を知り親しむために、川の水質を調べたり、魚のつかみ捕り、カヌー・ラフティング、稚魚の放流、魚の暮らしについてお話を聞いたりしています。

また、環境美化活動として、ゴミ拾いや、川沿いや沿道を花で飾っています。

自然環境保全活動では、湿原の水を保全するためブナを植樹しています。生態系に配慮して、同じ場所の小さなブナを育てて植えます。

こうした活動は、行政主導ではなく、地域の人々自ら行うことが大切です。スタートして二年目。昨年に花木の植栽をした金山町の団体が、その後も自主的に植えた花木の手入れをしていて、徐々に住民自らによる地域づくりが実を結び始めています。

「流域環境美化と清流に親しむ事業」は来年度も引き続き行われます。

シリーズ「地域活性化とは」④

行事を伝える

「タイマツブチ」（柳津）

「タイマツブチ」は村の人だけで守ってきた。悪霊退散、身体堅固、大火封じのための大事な行事だ。昔から中の九日の前の晩って決まっていて、雨が降ろうと何だろうと、この日だけは動かさねぇ。暦どおりだ。今年は11月3日だった。みんな当たり前のことと思ってるから、区長はその日がいつだか何時に集まるか伝えるだけでいい。みんなが流れを知ってるから自然にまとまる。厄年の人が神木の杉を出す。61歳の厄の人が切ることが多いね。各家からはそれぞれ燃え草を用意して持ってくるから、御神体はおっきいよ。これでも小さくなった。みんなが燃え草持って集まるっていうのが大事なことだ。

「タイマツブチ」はやるのが当たり前。村の大事な年間行事で、その年不幸があったところ以外はみんな出てくる。

明治の終わり頃、なんでだかやらなかったことがあって、その年、村中が大火にあったそうだ。村の安全のためにも、「タイマツブチ」はどんなことがあってもやることになってる。火勢は強いし遠くまで火の粉も飛ぶが、神事だからね、絶対火事になんかならねぇ。

みんな、決して火事にはなんねぇと思ってやってる。みんなが思ってるから大丈夫なんだ。人口が少なくなろうと、ご神体が小さくなろうと、これだけはずっとやるでしょうね。若いもんがたとえここにいなくなっても、その日だけは戻ってきてやるとか、人がいる、いないの問題じゃねぇ。そのくらい極当たり前のことなんだ。それよりも、オガラ（麻の茎）が無くなることの方が心配だ。藁葺き屋根を解体したときのオガラを使ったり、昭和村から分けてもらったりして使ってるが、オガラじゃねぇと駄目だ。炎の柔らかさが違う。オガラのタイマツで相手の足元を叩いて厄を落とし合うんだよ。一散に燃えても駄目だ。炎が強すぎても駄目だ。オガラじゃねぇとな。

子供たちには特別教えてるわけじゃねぇ。大人と一緒にやってて自然に学ぶんだ。これも当たり前のことだ。

最近見てる人が多くなったが、昔は見てる人なんていなかった。ブチ合うのが当たり前。イベントじゃねぇ。村のもんが気持ちをひとつにしてやる、大事な行事なんだよ。

小林　謙（柳津町・砂子原区長）

「タイマツブチ（センドムシ）」
柳津町の砂子原地区、湯八木沢地区で毎年旧暦の中の九日に行われる激しい火祭。

景観ガイドライン その2

奥会津はここ！

統一案内板の整備

奥会津にふさわしい美しい景観を維持しようと、「景観ガイドライン」が策定されたことは前号で紹介致しましたが、それは奥会津地域内に暮らす人々ばかりでなく、この景観を愛する外部の方々の更なる理解を深めることにも繋がります

只見町

現在、奥会津への主要な流入路は、3つのインターチェンジ・会津坂下、小出、西那須野の三ルートが想定されます。

ところが、どこからどこまでが「奥会津」であるのか、明確な案内表示もないまま、あいまいな印象をぬぐえませんでした。

「うつくしい環境保全事業」では、景観ガイドラインを補完し、積極的に奥会津をアピールするために、統一案内板の整備にむけた取り組みが始まっています。

昨年から、標識や案内板の実態調査が進められ、今年度内には、看板などの具体的なデザインが決定される予定です。

圏域への誘導案内板やゲート、駐車できる拠点施設には総合案内板や各町村毎の案内板を、また、奥会津全体を案内する交通標識、その裏面には「歳時記の郷・奥会津」を印象付けるイメージ標識を掲げるなど、効果的なガイドの役割を担うことになります。

三島町

案内板は奥会津全体を統一したイメージで捉え、さらにそれぞれの町村の個性をも引き出すことでしょう。

「奥会津はここです！」

※第8号で掲載した伊南村の写真は、南郷村の間違いでした。お詫びして訂正致します。

奥会津の自然⑦

宝物って何？

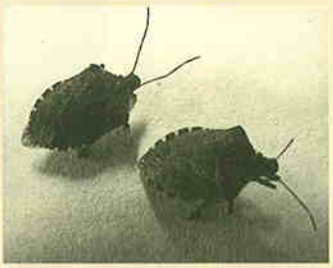
いよいよ冬の到来が間近に迫ってきました。三島町からは「今年はいつもの年よりカメムシが家の中に入ってくるのが遅いし数も少ない」との情報が届きましたが、皆さんのところはいかがですか？今回は冬の訪れを告げるカメムシのことをご紹介しましょう。

〈カメムシが多い年は大雪になる？〉

晩秋になると集団で家の中に侵入し、悪臭を放つことから皆さんが「クサムシ」と呼んでいるのは「クサギカメムシ」という種名のカメムシです。

奥会津では「秋にカメムシが多いとその冬は大雪になる」という言い伝えがありますが、実は岡山県北部や鳥取県、山形県、青森県など全国各地に同じ言い伝えがあるそうです。昨年は奥会津でもカメムシが大発生し、その駆除に随分手を焼いたと聞きましたが、昨年のカメムシの大発生は全国的規模で、しかも1973年以来20数年ぶりの出来事だそうです。

カメムシの発生量と積雪量との因果関係は明らかではありませんが、只見地域気象観測所のデータでは過去30年間で最も雪が多く積もったのは1974年2月の383㎝であり、確かにカメムシの全国的大発生の年に当たっています。気象庁の長期予報は未だに的中率に問題があるようですが、カメムシが冬支度に先駆けて雪の量を知らせに来ると思えば、厄介者にも少しは温情が生まれるかもしれません。



カメムシ

〈嫌われ虫にも未知の効用？〉

クサギカメムシのような陸生カメムシの仲間は日本には約400種、そのうちの約90種ほどが奥会津にも生息すると言われています。これらのカメムシの多くは食植性でイネや野菜、果樹などの農作物やスギ・ヒノキの球果などを吸収することから農林業の害虫として知られている種も多く、一般的には嫌われ者の昆虫です。しかも家の中まで入り込み、悪臭を放つのだから嫌われても仕方がありません。

しかし、一部の食虫性のカメムシは農害虫の天敵として利用されているものもあり、また、キンカメムシやツノカメムシの仲間はその美しい色彩と個性的な形態から昆虫愛好家の興味対象となっています。

さらに、近年ではカメムシの放出する臭気には仲間への警報フェロモンや集合フェロモンとして重要な働きをする物質が含まれていることが判ってきましたし、雌の成虫が卵や幼虫を保護する習性があることや、音を出して個体間のコミュニケーションを図っていることなど、興味深い生態が明らかになりつつあります。

嫌われ者のカメムシにも、将来、人間に役立つ重大な発見があるかもしれません。

㈱プレック研究所　松井　孝子

エコロジーを考える

誠実に自然と付き合う姿勢がエコロジーの考え方の基本です。

地域の方々の自然に対する思いを首都圏の方々に知ってもらい、互いに影響し合いながら奥会津の自然を大切に育もうという「エコハイク」は、10月7日・8日は伊南村で、11月3日・4日には南郷村で行われました。

伊奈村エコハイク

南郷村エコハイク

自然の在り方を問うエコハイクを通して、都市住民との交流が図られ、活発な意見交換や新しい発見が生まれました。地域住民があらためてエコを考える機会ともなりました。

参加者の声

「楽しく参加できた。山に入る時は、山を一切汚さないことを心がけている。」

「日頃はエコについてあまり考えなかったが、山に入る心構えを整えるようになった」

トピックス

奥会津世話人登場！

金山町カヌークラブ　滝沢　悦郎さん

カナディアンカヌーの醍醐味、それはカヌーでしか行けない雄大な自然を肌で実感できること。風を切って水面を滑って行くあの爽快感。カヌーを通じての出逢いやふれあいなど、一言では言い尽くせないことばかりです。

「奥会津研究会」の世話人として、金山カヌー事業を進めて行くわけですが、目標は5年後にカヌー基地を誕生させること。漠然としていますが、カヌークラブの来年度の事業計画は、カヌークラブホームページの立ち上げ、カヌー講習会、半日・一泊カヌーツアー、静水カヌーインストラクター講習会、各町村イベント参加等盛りだくさんの事業を予定しています。

今後も只見川電源流域9町村の方々の参加を、クラブ員一同お待ちしていますので、よろしくお願い致します。

奥会津仕掛け人事業

平成11年度まで続いた第一期事業では、事業の実施が行政主導で行われた分、住民の地域づくりに対する気運の盛り上がりが今ひとつ十分でなかったといえます。

又、各町村に整備された施設が広域連携という点で、十分活用されていないという課題を残しました。こうした反省点から第二期事業に向けては地元の組織体制の強化や、住民が計画段階から参加できる組織作りを推進することが求められ、「奥会津仕掛け人」という制度が創設されました。

「奥会津仕掛け人」はこの広い域内を自由に動きまわる立場で地域内に起きた動きを『仕掛ける』起爆剤にあたる役割を果たし、『住民と住民』、『地域と地域』をつなぐ調整を行います。そして、共同事業を仕掛けていきます。

更に、協議会事業を支えるもうひとつの推進母体として「奥会津研究会」があります。これは各町村の地域づくりに思いのある若者で構成され、地域における課題の解決策を協議会事業に結び付けることを狙いに組織されています。「奥会津仕掛け人」はこの研究会のアドバイザーとしての役割も果たし、住民参加の仕掛け作りを援助します。

現在、奥会津仕掛け人は只見町に住所を移転され、奥会津を拠点に活動されています。

いべんと告知板

第6回 奥会津フォトコンテスト締切間近です！

フォトコンテストの部門別作品募集の締切がもうすぐです。

奥会津を撮影した作品で、是非ご応募下さい。

締切：平成13年12月25日㈫

撮影ツアーと写真教室「冬の部」

7月に引き続いて、来年の2月24日・25日・26日と、竹内敏信氏他の講師を招いて撮影ツアーが開かれます。奥会津の冬季間のなかでも、特に雪の多い時期に行われる撮影ツアーです。

内容

- 奥会津撮影
- 竹内敏信先生講演会
- 写真教室
- コンテスト授賞式
- 作品寸評会
- 交流会

お問い合わせ

「奥会津写真・文化の郷」事務局
㈱フレームマン・フォトテクノ内
☎03―3452―1327
インターネット情報
http://www.okuaizu.com/

地域の行事が深める集落の結束

サイノカミ

1月15日に広域で行われる「サイノカミ」の行事は、集落を維持するための大切な基盤として、今も各集落で脈々と生きています。農耕生活と深く関わっている年中行事の中でも、サイノカミはとりわけ集落の結束を確認する重要な行事とされてきました。

この日、男たちは山からご神木を切り出し、女たちはバンバ（祭場）を踏み固めます。大人たちが協働して祭りを営む姿を、子どもたちは高揚した気分の中で体得して行くのです。一連の流れの中心には、人間が御すことの出来ない聖なる火があり、火に降臨した神を大人も子どもも同じ思いで見つめるとき、自然に生まれる一体感を学んできました。火を介して厄を払い、身体堅固を願い、豊穣を祈る特別な日の特別な時間を共有することは、お互いがかけがえのない大切な存在であることを実感する場でもあります。

集落の連帯がいかに大事かを、この日、子供たちはしっかりと心身に刻み込んでいるのです。

奥会津の予祝・新年行事

12月

大黒様の年取り	三島・金山・南郷
節納豆寝せ	柳津・三島・昭和
松迎え	昭和
道具の年取り	三島

1月

山入り・若木迎え	三島・金山・昭和・只見
若水汲み	広域
御棚探し	檜枝岐
七日堂裸まいり	柳津
早乙女踊り	南郷・只見
小正月（女正月）	三島・金山
サイノカミ	広域
餅の正月	昭和・只見
鳥追い	三島・昭和
だんご刺し	柳津・三島・金山・昭和・只見

※集落もしくは家庭単位で行われている行事です。

編集：奥会津書房　福島県大沼郡三島町宮下　TEL 0241-52-3580
★この冊子は電源立地特別交付金の事業により作成されています。

発行：只見川電源流域振興協議会
〒968-0421　福島県南会津郡只見町役場　企画課内　TEL 0241-82-5220
http://www.okuaizu-style.com/tdrsk/